

世界での災害 命の大切さ

なぎさ小学校六年二組

難波 真凜

私は中野元太さんの話を聞いて世界でも災害が多くあっていて私達に出来ることは、私たちが経験した阪神淡路大震災のころ人々に伝えることかなと考えました。中野さんが行ったネパールの防災活動で、ネパールの家はレニかできていて、こわれやすいと教えてもらい、そのネパールの家を写真で見ると、今にもくずれそうだし、レニ

かかぬけたりたり日本の家とはまったくちかくなまと思いましたが、日本の家はこわれにくくて、じょうぶだけど、ネパールの家は、こわれやすいので、地震が来たときには、こあると思っています。だから、地震がくる前から、家をしっかりと建直したり、建直しが出来ないところでは、少しでいいから補強工事をして、したりしたら、地震が来ても、こわれないうちになると思います。そして、人々の命を守れると思います。自分達も、こうした自分の考

えを世界に言うことも大切だなあと思いまし
た。

スリランカでの活動を教えていただけで、
二〇〇四年におこったインド洋大津波
がまわって、人々ほととてきつらい経験を体験し
てりて、悲しいことだなあと思いました。津
波が来て、みんなさくなったりしたから、
人々海がこわいと思ってる人が多かったです。
人の男の子は、海にこぶきまつてたけど、
だんだん心が直って行って、すごい勇気が

あまるなあと思いましたが。

私は中野さんの話を聞いて、人々は、
人々と助け合って、命を大切にしなければい
けないなあと思いました。これから、火災が
おこると思うけど、人々と助け合って生きて
いかならばいけないなあと思いました。